

乗って残そう養老鉄道



平成19年10月1日から養老鉄道がスタートし、存続に向けての各種の活動が進められていますが、活動の目的は「鉄道は残すこと」ではなく、「利用される鉄道であり続けること」が大事です。住民の方々の支援をお願いするなか、鉄道の存続の重要性を意識し続けることと、維持発展に向け地域全体が力を合わせ続けることが必要ではないでしょうか。

養老鉄道発足までの経緯

●右肩下がりな厳しい利用状況

・昭和41年 1,684万人（ピーク時） → 平成18年 707万人（ピーク比42%）

背景

- ・モータリゼーションの進展
- ・少子高齢化などによる

●地域にとって欠かせない鉄道の実情

- ・学生輸送の占める割合が大きい
- ・地域高齢者の大切な移動手段
- ・長年にわたる地域への貢献

もしも養老鉄道が無くなったら

これから、どうしていくのかみんなで考えよう！

●養老鉄道と関係自治体との協議

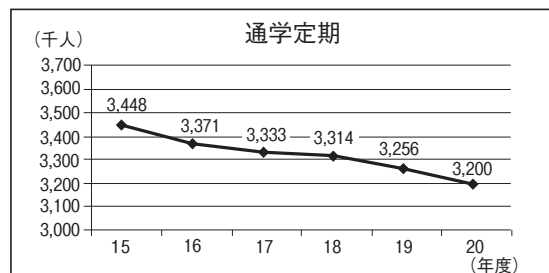
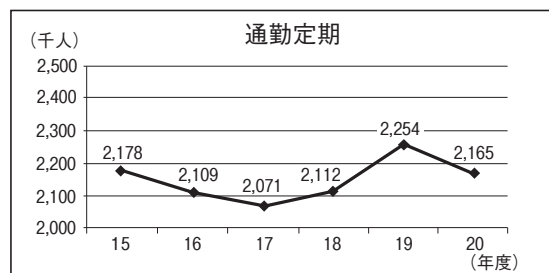
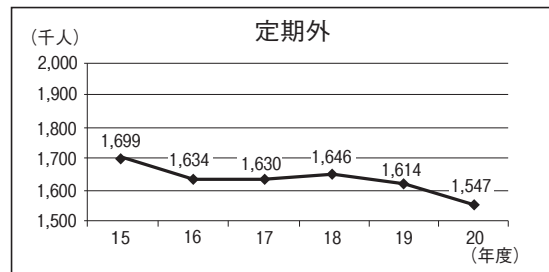
- ・平成16年春から協議が開始され、地元自治体、利用者、鉄道事業者が三位一体で鉄道を支えていくことで合意。

●相互協力の取り組み内容

- ・池田町と養老町の交流イベントの開催
- ・乗車券持参でコンサートへの入場
- ・地元特産品を活用した乗車券発売

輸送人員の推移（揖斐駅～桑名駅）

H15～H20：実績



(資料提供：養老鉄道株式会社)

池田町内での取り組み状況

- ・町内3駅での無料駐車場の確保
- ・池野駅北口の開設
- ・駐輪場の増設
- ・池野駅にイルミネーションの設置
- ・ボランティアによる町内3駅の鉄柵ペンキ塗り
- ・月1回各種団体による町内3駅の清掃



北池野駅での清掃ボランティア